

つなげよう、育てよう、活かそう“さくらおろち湖”

尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 第6回委員会

資料—2

尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

1. 第5回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨
2. さくらおろちを活性化する会の活動報告

平成30年1月15日

尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会事務局

1. 第5回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

- 1 開催日時 : 平成29年01月25日(水) 10:30~12:00
- 2 場 所 : 尾原ダム管理支所(島根県雲南市木次町211-5)
- 3 出席委員 : 速水雄一委員長、作野広和委員、勝部博委員、石原肇委員、景山孝志委員、勝田康則委員、横川裕委員、高橋裕司委員、柴田亮委員



4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 挨拶 雲南市長 速水委員長
- 3) 出席者紹介 高橋委員、柴田委員
- 4) 議事
 - ①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約
 - ②第4回委員会以降の取組経過の報告
 - ③平成28年度のプロジェクトの実施状況
 - ④水源地域ビジョンの更新(案)
 - ⑤平成29年度の実施プロジェクト(案)
 - ⑥その他

5) 閉会

5 配布資料

- ・資料-1: 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約
- ・資料-2: 第4回委員会以降の取組経過の報告
- ・資料-3: 平成28年度のプロジェクトの実施状況
- ・資料-4: 水源地域ビジョンの更新(案)
- ・資料-5: 平成29年度の実施プロジェクト(案)

6 議事要旨

1) 委員長挨拶

- ・平成25年度の来訪者数は約10万人、平成26年度は約12万5千人、平成27年度は約13万5千人、今年度は昨年度以上の来訪者数が予想されるなど、これまで実施してきた取組の成果がでてきている。
- ・今年度は高校総体や島根県初のトライアスロン大会の開催など、様々な取組が実施されており、これらのイベントもこの地域の名物になっていくことを願っている。
- ・治水、利水のための尾原ダムにあわせて、地域振興の役割をしっかりと担っていく、そのようなさくらおろち湖にしていく必要がある。そのためにも、水源地域ビジョン推進委員会の果たす役割は非常に大きなものがあると考えている。

2) 議事

①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約

- ◆規約の変更はなし。委員の交替について説明した。

②第4回委員会以降の取組経過の報告

- ◆事務局より、第4回委員会以降の取組経過について報告が行われ、承認された。

【事務局説明内容】

- ・国土地理院が発行している地図では古い情報が掲載されていた。そのため、竣工後の地図情報を提供し、最新の情報になるよう依頼をかけた。
- ・尾原ダムとさくらおろち湖の名称の定着に向けて、併記可能な場合は極力併記するようにしている。
- ・第4回推進委員会後、さくらおろちを活性化する会を4回開催し、取組内容等に関する意見交換を行った。
- ・委員からの指摘を受け、「尾原ダム」と「さくらおろち湖」が国土地理院 web サイト地図情報に反映されていることを確認した。

③平成28年度のプロジェクトの実施状況

- ◆事務局より、平成28年度のプロジェクトの実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・今年度予定していた全てのプロジェクトを実施した。
- ・今年度は、「さくらおろち湖花火大会」や「ダムカレーの検討」、「トライアスロン大会の開催」などを新たな取組として実施している。
- ・全国規模の大会としては、「平成28年度全国高等学校総合体育大会」を開催した（平成27年度は、「第8回全日本マスタースレガッタ」を開催した）。
- ・景観保全・整備の一環として、第2回さくらおろち湖写真コンテストを開催し、ダム湖祭り時に表彰を行った。入賞作品については、雲南市や奥出雲町を中心に巡回展示している。
- ・「ダムカレー」については、3月4日に予定しているクレスト放流時に試験販売する予定である。

【委員からの主な意見】

- ・「(13)-2 日本一プロジェクト」で実施されている『ランバイク教室』については、保護者からも人気が高い。利用者の増加を目指して更なる充実策を検討していく必要がある。

④水源地域ビジョンの更新（案）

- ◆事務局より、水源地域ビジョンの更新（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・平成25年9月に水源地域ビジョンを策定した時の状況と変化していきっている部分があるため、水源地域ビジョンの見直しを行った。
- ・基本的には現在実施している取組は継続しつつ、単独での対応が困難な取組や類似している取組の統合、新たに整備された施設の活用策の追加などを行った。

⑤平成 29 年度の実施プロジェクト（案）

◆事務局より、平成 29 年度の実施プロジェクト（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・来年度も引き続き、今年度実施した取組を推進していく。

【委員からの主な意見】

- ・多くの人が参加する事業へ学生に参加してもらうことが、地域づくりへの参加のきっかけになるのではないか。
- ・島根大学が中心となり地域貢献型の人材育成を行う『COC 事業』『COC+事業』を実施している。講座の受講生の学習場として尾原ダム周辺が活用できるか働きかけていく必要がある。

2) 今後の予定等

- ・規約に基づき、本日の審議要旨をとりまとめ、委員長の下承を得た上で、議事要旨等を出雲河川事務所ホームページに公開する。その際には事務局より各委員に通知する。

2. さくらおろちを活性化する会の活動報告

1) 第5回推進委員会以降の尾原ダム水源地域ビジョン推進状況

年月		尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 さくらおろちを活性化する会	議事事項等
平成28年度	1月	第5回推進委員会【1/25】	- 平成28年度のプロジェクトの実施状況 - 水源地域ビジョンの更新（案） - 平成29年度の実施プロジェクト（案）
	2月	第17回さくらおろちを活性化する会【2/9】	- 第5回推進委員会の開催報告 - 今後の進め方の検討 - 個別プロジェクトの検討
	3月		
平成29年度	4月		
	5月		
	6月	第18回さくらおろちを活性化する会【6/27】	- さくらおろちを活性化する会の今後の進め方 - 平成29年度に実施するプロジェクト（案）
	7月		
	8月		
	9月	第19回さくらおろちを活性化する会【9/26】	- 平成29年度の実施スケジュール（案） - プロジェクトの実施状況
	10月	アンケート調査・ヒアリング	平成29年度のプロジェクトの実施状況の確認
	11月	第20回さくらおろちを活性化する会【11/30】	- 平成29年度のプロジェクトの実施状況 - 平成30年度の実施プロジェクト（案）
	12月		
	1月	第6回推進委員会【1/15】	- 平成29年度のプロジェクトの実施状況について - 平成30年度の実施プロジェクト（案）について - 水源地域ビジョンの推進スケジュール（案）について
	2月	第21回さくらおろちを活性化する会【予定】	未定
	3月		

2) 第17回～第20回のさくらおろちを活性化する会要旨

開催回	第17回	開催日	2月9日
議題	・第5回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の報告 ・平成29年度の実施プロジェクト ・その他 ・情報交換		
主な意見	【イベント開催時の課題】 ・尾原ダム周辺では様々なイベントが開催され、<u>交流人口が増えている</u>ことはありがたい。ただし、来訪者と地域住民との交流があまりないため、今後は<u>交流を深めていく必要がある</u>。 ・尾原ダム周辺には約14万人の来訪者があるが、<u>大規模イベント時における宿泊が課題</u>である。 【遠足ウィーク】 ・遠足ウィークの評判は上々であった。<u>遠足ウィークでは様々な施設を利用していると同時に、リピーターも増えつつある</u>。 【情報発信】 ・ダム湖やサイクリングロードを活用してイベントを開催しているが、<u>風景がよいと評判</u>である。来訪者を拡大していくためには、<u>情報発信が重要であるが、現段階では有効な情報発信ができていない</u>。 【活動団体間の連携強化】 ・地域住民の高齢化等によりイベント開催時の人集めが大変になってきている。もう少し横の連携を強化することが、来訪者の増加につながっていくと考えている。 【学生との連携】 ・島根大学生をはじめ、<u>流域の学生と一緒にイベント等を開催</u>していきたい。地域のイベントが記載されているカレンダーを共有することが、来訪者の増加につながるのではないかと考えている。		

開催回	第18回	開催日	6月27日
議題	・さくらおろちを活性化する会の今後の進め方 ・平成29年度に実施するプロジェクト（案） ・その他 ・情報交換		
主な意見	【学生との連携】 ・志津見ダムでもダム周辺の活性化や実施計画、交流など同様の取組みをしている。そこでは、<u>大学生等の若者との交流</u>として草刈体験や田植え体験をしている。 ⇒<u>島根大学とのコラボの窓口として、奥出雲ラボトリーが開設</u>され、島根大学の学生と地域文化について勉強を兼ねて活動している。 【情報発信】 ・尾原で行っている<u>様々な活動をいかに情報発信していくかが重要</u>だと思っている。情報発信はできるだけ行政機関をつかった方が効果が高い。 ・<u>スポーツイベントが定着</u>しつつあり、祭りに参加する観光客が増えているため、<u>他の観光地と一緒にPR</u>をしていくことも必要だと考えている。 ・<u>ダムカレー</u>はPRしているのか。 ⇒<u>昨年度地域おこし協力隊でダムカレーを試作</u>した。クレスト放流の際に販売した。尾原ダムの新しい地域資源として有効であると思っている。 ・HPだけでなく、<u>有線放送など様々な情報発信が良い</u>のではないかと考えている。例えば、ダムで行っているワカサギ釣りは、釣り具屋にポスターを貼るなど、その目的の人が集まりそうなお店や場所にアプローチが必要ではないかと考えている。 【スポーツイベント時の交流イベントの開催】 ・スポーツイベントを単発でやる際には、<u>その前日に屋台や祭など夜までやっているイベントを絡めたらどうか</u>。楽しみが2つになり、分けない方が負担が減る。泊まってくれる方も増えるのではないかと考えている。		

開催回	第 19 回	開催日	9 月 26 日
議題	・平成 29 年度に実施するプロジェクト（案） ・プロジェクトの実施状況 ・その他 ・情報交換		
主な意見	【先進事例の見学】 ・ワカサギの育成を行っているが、今年は卵の産地である諏訪湖での育成が悪く、入手できていない状況である。次年度に向けた取り組みとして、<u>先進地の視察</u>などを考えている。 【関係機関との連携強化】 ・豪華列車「トワイライトエクスプレス瑞風」が雲南市に入ってくるため、そのつながりを観光に活かせないかと思っている。<u>JR 西日本の地域協力と連携</u>していくことを模索していきたい。 【情報発信】 ・ヨーロッパ野菜の栽培や害獣対策の補助によりイノシシの食肉処理施設の建設工事が始まっている。イノシシの肉（ジビエ）、ヨーロッパ野菜、山菜の食べられる<u>農家レストラン</u>を PR していきたいと思っている。 ・<u>新たな魅力発信・ビューポイントとして湖上花火を開催</u>した。さくらおろちの新たな魅力発信になるのではないかと考えている。 【葛への対応】 ・今年は葛の成長がものすごいと感じている。早急に対策をしなければ、植樹した樹木がダメになってしまうのではないか。 【ダムカレーの開発】 ・奥出雲町では、ダムカレーをイベント中心で活動している。ある程度ルールを作り、この食材を使っていれば<u>ダムカレーとする認定制度</u>をつくることを考えている。 ・「おいずもバル」では、町内・町外の方々が町内のお店をチケットを使って食べ歩いた。その際にダムカレーを出しており、とても宣伝効果があったと思う。今までダムカレーを知らない方々が知る機会になった。周知が進む事で<u>ダムカレーをきっかけとしてダム本体についても周知</u>できると思う。		

開催回	第 20 回	開催日	11 月 30 日
議題	・平成 29 年度のプロジェクトの実施状況 ・平成 30 年度の実施プロジェクト（案） ・その他 ・情報交換		
主な意見	【イノシシ肉の加工】 ・槻之屋でイノシシ肉の<u>食肉加工施設を建設中</u>である。平成 30 年 4 月頃から道の駅のレストラン等で提供する予定である。 【道の駅おろちの里】 ・道の駅のレストランで提供しているサラダは大変人気である。道の駅には情報発信コーナーが設けられているが、パンフレットなどを配布している程度である。今後は<u>情報発信コーナーを積極的に活用</u>していきたい。 【写真コンテスト】 ・写真コンテストでは芸術的な写真だけでなく、尾原ダム周辺の様々な魅力を収集、発信していきたい。今後は、<u>入賞作品などを活用してカレンダーを製作</u>したい。 【クレスト放流】 ・毎年 3 月に実施している<u>クレスト放流の認知が広がっている</u>。今年は、観光協会から観光バスを用いたツアーを実施したいという声もあがってきている。		